

自社に適したサービスを選ぶ5つのポイント

## 請求書受領サービスの 失敗しない選び方

さまざまな業務のデジタル化の波に加え、電子帳簿保存法やインボイス制度などの法対応の必要性を受けて需要が高まっている請求書受領サービス。

サービスによって機能や特徴が異なるため、どのようにサービスを選ぶべきかを悩んでいる企業も多いのではないのでしょうか。

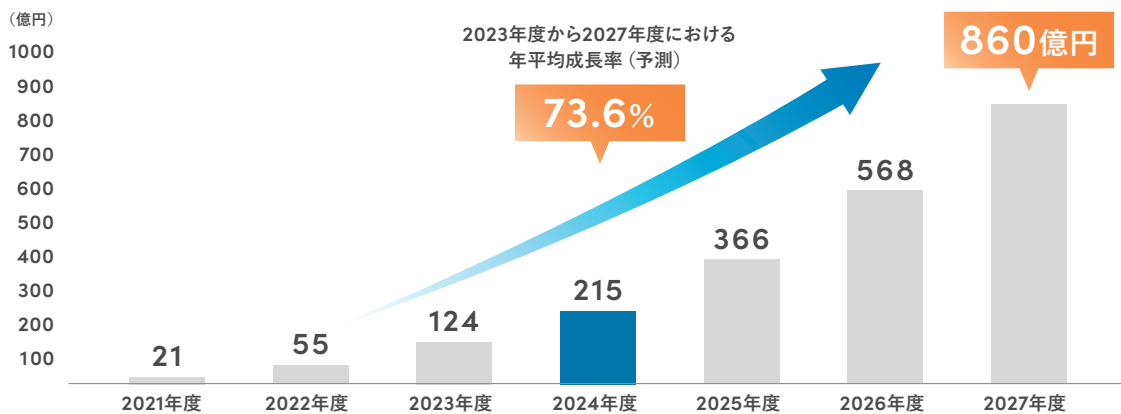
サービス選定の基準となる5つのポイントについて解説します。



## クラウド請求書受領サービスの 現在とこれから

クラウド請求書受領サービスの市場規模は、2027年度に860億円まで拡大すると予測されています。2023年度からの年平均成長率（CAGR）は73.6%とされ、驚異的な成長が見込まれる有望市場です。

このような予想がなされる理由の一つとして、請求書受領サービスを導入することによって得られる経理部門の業務効率化、テレワーク推進、ペーパーレス化などにおける効果の大きさが挙げられます。



出典：デロイト トーマツ ミック経済研究所「驚異的な成長を続けるクラウド請求書受領サービス市場」(ミックITリポート2023年11月号)の市場規模数値を使って弊社作成。  
グラフの数字は1億円未満を四捨五入して算出

### サービス導入で期待されている効果



業務効率化



テレワーク推進



ペーパーレス化

市場規模の拡大に伴い、多くの請求書受領サービスが登場しています。

自社に適したサービスを選ぶには、

どのようなポイントに気を付ければいいのでしょうか。

## クラウド請求書受領サービスを選ぶ 5つのポイント

### Point 1

## データ化の精度とスピード

正確・迅速なデータ化が実現できるサービスを選びましょう。  
サービスの品質が維持されるような運営基盤の確認も重要です。

### Point 2

## セキュリティ

セキュリティが担保されるサービスを選びましょう。  
機能のほかに、セキュリティ認証の取得有無など、運営企業の取り組みも重要です。

### Point 3

## 業務効率化

自社と取引先にとって、少ない負担で業務効率化できるサービスを選びましょう。  
頻繁な法改正に自動で対応してくれるサービスであることも重要です。

### Point 4

## サポート体制

しっかりと運用を定着させるために、サポートが手厚いサービスを選びましょう。  
導入時だけでなく、運用開始後も適切なサポートが受けられることが重要です。

### Point 5

## 価格体系

自社にマッチする価格体系のサービスを選びましょう。  
初期費用や料金プランに含まれている項目をしっかりと確認することが重要です。

## Point 1

# データ化の精度とスピード

紙やPDFなど、さまざまな形式で届く請求書を、正確に、かつ迅速にデータ化できるかが重要です。

また、請求書受領サービスは経理業務のインフラとして、長く利用することが想定されるため、

中長期的に品質が維持されるかどうか、チェックしたいポイントです。

正確で迅速なデータ化を実現できる技術や体制の有無など、将来まで見据えてサービスを選びましょう。

### ▼ ここをチェック

#### ✓ データ化の精度が高いか

請求書には、取引金額や取引年月日、口座情報など、さまざまな情報が含まれます。

これらを正確にデータ化することが可能かどうかをチェックしましょう。



#### ✓ データ化の速度はどのくらいか

請求書が届いてからデータ化するまでにかかる時間も重要なチェックポイントです。

できるだけタイムラグがなくデータ化できるサービスを選びましょう。



## Bill One

データ化精度

99.9%\*

受領の形式を問わず

翌営業日中

にデータ化

営業DXサービス「Sansan」で15年以上培ったデータ化の技術とオペレーションによって、「AI」と「人力」を組み合わせたハイブリッドな手法による高精度なデータ化の安定運用を実現しています。

\* Sansan 株式会社が規定する条件を満たした場合のデータ化精度

## Point 2

# セキュリティ

請求書には、機密性の高い情報が多く記載されているため、  
セキュリティがとても重要です。

請求書データの流出や情報漏えいを防ぐためにも、利用しようとするサービスにおいて  
どのようなセキュリティ対策が取られているのかをチェックしましょう。

### ▼ ここをチェック

#### ✓ 必要なセキュリティ対策が取れるか

必要なセキュリティ対策のレベルは、企業ごとに異なります。シングルサインオン（SSO）や2要素認証といった、必要な機能を備えたサービスを選びましょう。



#### ✓ 企業としての実績はあるか

サービスを運営する会社の企業規模や実績を確認することも大切です。一つの基準として、セキュリティ認証を取得しているサービスであるかを確認しましょう。



## Bill One



シングルサインオン、  
2要素認証、IPアドレス制限など



IS 765909 / ISO 27001  
CLOUD 765911 / ISO 27017

国際規格の認証を取得

豊富なセキュリティ対策機能を備えています。  
また、情報セキュリティマネジメントシステムに関する国際規格の認証も取得しています。

## Point 3

# 業務効率化

サービスを導入したことでかえって業務負担が増えてしまった場合は、本末転倒です。すでに利用しているサービスやシステムがあれば、相性を考えて選びましょう。また、電子帳簿保存法やインボイス制度など、法制度で定められた要件を満たすことができるかどうか重要なポイントです。

### ▼ ここをチェック

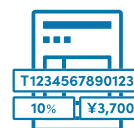
#### ✓ 既存のサービスやシステムをそのまま利用できるか

自社で利用している基幹システムや会計システムと、APIなどで連携できるサービスがおすすめです。



#### ✓ 法制度に対応できるか

電子帳簿保存法やインボイス制度など、改正も都度発生する法制度に対応できるかをチェックしましょう。

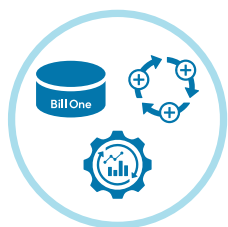


#### ✓ 取引先に負担をかけない仕組みか

請求書を発行する企業が、既存の送付方法や発行形式を変えることなく対応できる仕組みを備えたサービスがおすすめです。



## Bill One



外部サービスとの  
連携が可能



法改正には  
Bill Oneが自動で対応



あらゆる請求書を  
オンラインで受領

外部サービスやシステムをBill Oneに連携させて活用することができます。また、法改正にも自動で対応。さまざまな方法・形式で届いていた請求書をオンラインで受け取れるため、取引先に負担をかける心配はありません。

## Point 4

# サポート体制

請求書受領サービスは導入することがゴールではなく、運用を定着させ、継続的に使ってこそ効果が得られます。そのために、導入後のサポートが極めて重要です。業務フローをしっかりと理解した専任の担当者がいるような、サポートが手厚いサービスを選びましょう。

### ▼ ここをチェック

#### ✓ 導入後も適切なサポートが受けられるか

運用開始から定着までのサポート体制が整っているサービスであれば、トラブルが生じた際もすぐに対応してもらうことができ、安心して利用できます。



#### ✓ 専任の担当者がいるか

メールやチャット、ヘルプサイトによるサポートだけでなく、自社の業務フローをしっかりと理解した専任の担当者がいるサービスがおすすめです。



## Bill One



### 専任の担当者が運用定着までサポート

法制度への対応や、業務効率化を目的としたサービス導入を数多く支援してきた専任の担当者が伴走し、スムーズに運用が定着するようにサポートします。

## Point 5

### 価格体系

サービスを長期的に使うためには、コストパフォーマンスが優れていることが重要です。

初期費用に含まれている内容や、ユーザー数の制限の有無について  
確認しておくことをおすすめします。

価格体系が自社にマッチしていて、無理なく使い続けられるサービスを選びましょう。

#### ▼ ここをチェック

#### ✓ 初期費用に導入・運用支援は含まれているか

導入後すぐにサポートを受けることができるよう、初期費用に運用支援が含まれているサービスがおすすめです。



#### ✓ ユーザー数に制限はあるか

サービスによっては、利用できるユーザー数に制限があったり、追加料金がかかったりすることがあります。自社の状況に合わせて柔軟に対応できるかチェックしましょう。



## Bill One

初期費用

+

年額費用

利用料金は初期費用+年額費用のシンプルな構成で、初期費用には導入支援も含まれます。  
受領する請求書の件数に応じて、お客様ごとに最適な費用を設定します。ユーザー数や請求者の保存枚数に制限はありません。



請求書受領から、月次決算を加速する

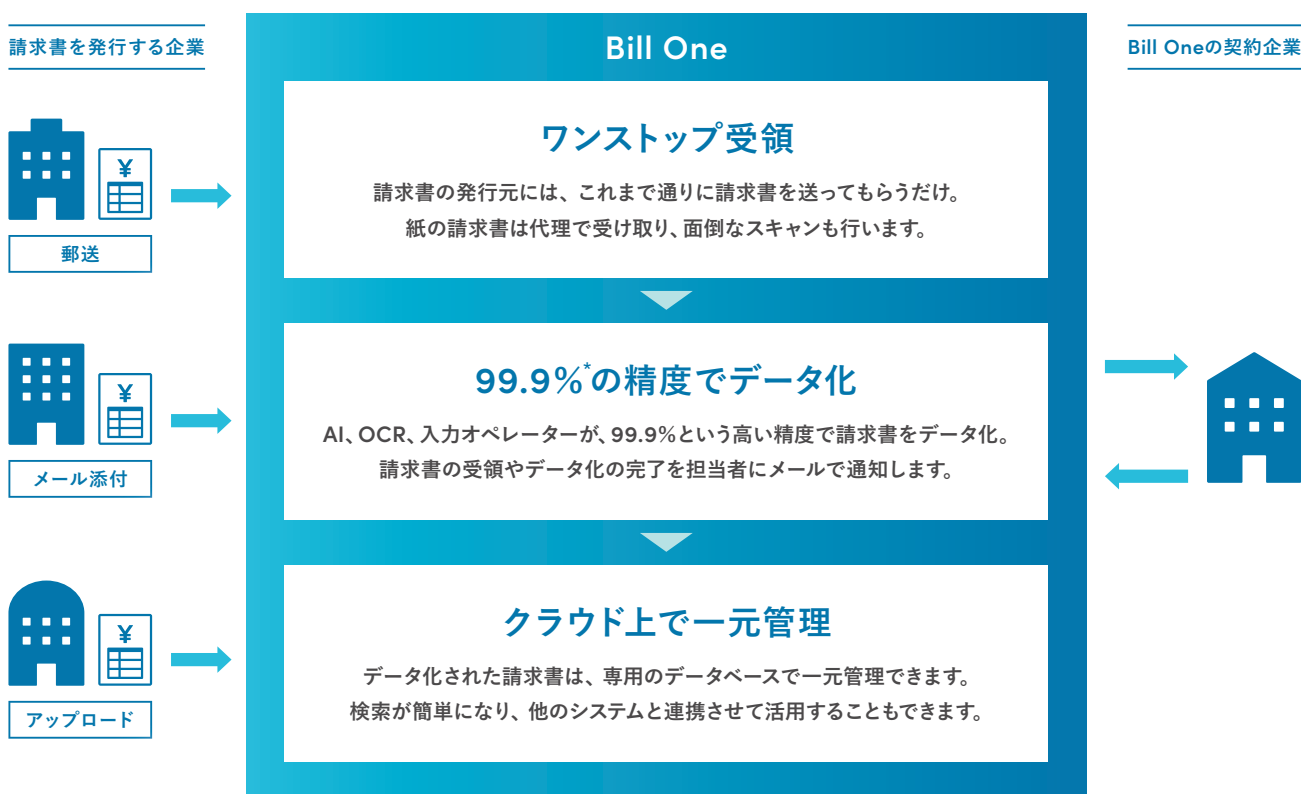
# Bill One

powered by Sansan

Bill Oneは、Sansan株式会社が提供するインボイス管理サービスです。

さまざまな形式・方法で届く請求書をオンラインで受け取り、

請求書業務を効率化することで、企業経営における意思決定のスピードを向上させます。



\* Sansan株式会社が規定する条件を満たした場合のデータ化精度

## 3つのメリット



あらゆる請求書を  
オンラインで受け取れる



法改正に対応した  
業務フローを構築できる



経理部門に限らず  
組織全体の生産性が上がる

# 請求書に関する法改正には、Bill Oneが対応します。

2022年1月1日に改正が施行された電子帳簿保存法や、2023年10月1日に開始されたインボイス制度など、Bill Oneを導入することで、法制度に対応した体制を構築することができます。

## インボイス制度

2023年10月1日から消費税の仕入税額控除の方式としてインボイス制度が開始されました。適格請求書（インボイス）は、税務署長に申請し、登録された課税事業者のみが発行できます。請求書の受領企業が仕入税額控除を受けるためには、インボイス制度への対応が必要になります。

### 適格請求書の受領だけでなく、発行にも対応しています

	<b>発行</b>		<b>受領</b>	
フォーマットに沿った 適格請求書の作成		適格請求書の発行 (紙・電子の両方に対応)	登録番号の照会 (国税庁のシステムとのAPI連携)	適格請求書の要件を 自動でチェック

## 電子帳簿保存法

電子帳簿保存法（電帳法）により、電子請求書は電子保存しなければならなくなりました\*。紙の請求書にも対応しながら、電子請求書を取り扱う必要があるため、コストをかけずに混在する紙と電子の請求書を一元管理する方法が求められています。

### 電帳法で定められた保存要件を満たして、請求書を電子保存します

			
正確なデータ化	タイムスタンプ	変更履歴・対応履歴の保存	請求書の検索

\*2022年1月から2023年12月31日までの間において電子取引によって授受した電子データ（請求書を含む）を保存要件に従って保存することができなかったことについて、やむを得ない事情があると認められ、かつ、その電子データについて出力書面（整然とした形式・明瞭な状態に限る）を提示または提出できる場合には、引き続き保存期間終了まで出力した書面による保存が可能となります（令和4年度税制改正）。

\*2024年1月1日以降に授受した請求書を保存要件に従って保存することができなかったことについて、相当の理由があると認められ、かつ、その請求書について電磁的記録のダウンロードの求め及び当該電磁的記録の出力書面（整然とした形式・明瞭な状態に限る）を提示または提出できる場合には、保存要件を不要として、電子データの保存が可能となります（令和5年度税制改正）。

**Bill One**  
powered by Sansan

お問い合わせ | デモ依頼やお見積りについては、お気軽にお問い合わせください

bill-one@sansan.com

0800-100-9933

https://bill-one.com

Sansan株式会社 [本社] 〒150-6228 東京都渋谷区桜丘町1-1 渋谷サクラステージ28F

※ 本資料は2024年8月に作成されました。掲載されている内容は作成時点での情報です。  
※ 本資料の記事・写真等の無断転載、複写、複製を禁じます。

© Sansan, Inc.